

1 / 1 6 ( 土 ) 1 4 : 0 0 ~ 1 5 : 5 7 陽明小学校 参加者 3 7 名 発言者 5 名  
...ご質問、ご意見 ...川西市教育委員会の説明

< 未就学 保護者 >

3点あります。なぜ陽明小学校に統合するのかという質問ですけども、説明いただいて、全然ピンとこなくて、言ってみれば同じように見えるので、なぜ陽明小に統合したいのか、もうちょっと理由を教えていただきたいのが1点。

2点目は、中1におけるギャップを減らしますっていうのが、小中一貫で、目指しますよというんですけども、資料6ページの小4から小5のギャップもあるようなんですけれども、これは4年生のレベルを上げますよと仰っているのか、5年生のレベルを下げて4年生とのギャップを減らしますよと言っているのかどちらでしょうか、というのが2点目。

あと最後、スケジュールのところ、なんか色々協議とか検討とかなっているんですけども、具体的に何を協議するのか、何を検討していつまでに何が決まって、統合までに何を決めるんですか。っていうのと、今回、そもそもの質問が、第1回説明会の内容は決定事項なのですかという質問に対して、回答になっていないんで、予算がという話はありませんけれども。決定させる方向で進んでいるんですね。もし、決定できない場合はありえるんですか。教えて下さい。

失礼します。1点目の、施設面・人数面でなぜ陽明小学校なのかというところでございます。資料で言うと3ページの下になるかと考えております。緑台小学校陽明小学校、いろんな点から比較はさせて頂いています。いろんな項目で、それぞれ一長一短、あると思いますが、教育委員会として、市長部局との協議の中で、大きく考えている点が3点あります。

まず1点目が、建築年数。陽明小学校の方が、同じ耐震改修を行ったにしても、土台となる部分の施設が新しいということで、考えております。

2点目が敷地面積でございます。上から5つ目になりますけれども、グラウンドの広さ校舎の広さそれぞれあるんですけども、敷地面積において、陽明小学校の方が広いということがあります。これは、先ほどから話もありましたけれども、これから先の事を考えていかなければならない。10年先20年先の小学校中学校の在り方を考えていくべき時に、やはり敷地面積に余裕があるほうが、その選択肢が多いというふうに考えております。どういうことを言っているかという、例えば今、全国的に進められています、施設一体型の小中一貫校、というのを、国も支援しようかという話もございます。そういった場合にやはりこれからの緑台中学校考えていくときの選択肢の一つとして、やはり陽明小学校の敷地が広い、という点はいろんな選択肢が取れるんじゃないだろうかということで、重きを置いております。もちろん子どもの活動面においても 広い方が良くかなというふうに思っていますが、将来的なことを思っております。

それと3点目が、下から2つめの、中学校との距離でございます。やはり中学校と近接している、しかも歩いてあまり時間がかからないところでいって、小中一貫、その土台となる小中の児童生徒の交流であるとか、教職員の交流が日常的に行える、毎日日常のところで行う時に、やはりこれほど近接しているというのはメリットになるんじゃないかと。以上3

点の点から考えております。

次に、4ページの上の人数ですが、緑台小学校の方が児童数が多いのになんで陽明小学校にいくのかというのは、やはり緑台小学校の中で意見が出されていたところでございます。

本表は、推計に基づきまして28年度から33年度までの緑台小学校、陽明小学校の児童数を計算したものでございます。先ほど説明がありましたように、学校全体をみまして20～38人と、まあ推計ですので差があります。6で割った時に1学級2～4名ぐらいの差であると。この人数を持って統合先を決めるというのは、基本的には難しいかなと。つまり決定的に統合先を決めるだけの人数差ではないのではないかと判断しております。

特に1年生の入学児童を見ていきますと、年度を追うごとに緑台小学校陽明小学校の人数差は少なくなってきましたので、やはり多田グリーンハイツ地区として、どう考えていくのかという視点に立って児童数を見ているということでございます。これが1点目です。

それから検討協議の内容でございます。11ページの下に、スケジュールについてということで、予算の話をしていただきました。

これらについてはどういう事柄を検討しているのかということですが、ひとつは通学支援でお話させていただきました。一定距離以上の低学年の児童を対象に年度を区切ってですけれども何か通学支援はできないかと、スクールカウンセラーであるとか、近々で言いますと、統合調整加配ということで、さっきも言いました校区外の児童を認めていますので単学級が生じると、平成28年度からそういうことが起こり得る可能性があるかと、ということで、今から予算を審議していく中で先ほどのスケジュールにありましたけれども、予算委員会を経て決定するというのは予算委員会で審査審議を頂いたうえで決定となりますので、協議ということになっています。それと、大きく言いますと、12ページの最後でございます。いろんな立場の方が、色んなご意見やご心配もございましてご質問もございまして。そういったところで、1回目の説明会では教育委員会の方向性を示させて頂いた。今日はその1回目の質問で出てきたことを、応えられる限りのことを出来るだけすみやかに答えさせていただくということで2回目を開催させていただきました。基本的には、ここで出た意見、質問等もう一度持ち帰って、市長部局にその内容を伝えて、協議したいと思っています。最終的にはもう1回説明会をさせて頂いて、3回目の説明会の際には、方針はきちっと決定させて頂こうと、こういう形でいきますということで進めさせていただこうというふうに考えております。担当に替わります。

小学校4年生と5年生のところの部分なんですけれども、学習のレベルを上げるとかではなしに、5年生で特に、例えば4年生から5年生に上がるときに、つまずきやすいところがある部分が見えますので、しっかりと、1年生2年生3年生4年生、次5年生を視野に入れて、どこがつまづくのかというところをしっかりとそのブロックで研究して、丁寧に指導して、いって、なだらかに接続していくという意味で、学習がどうのじゃなしに、きちっと発達段階において丁寧に研究して指導していくというところでご理解いただければと思っています。

「丁寧に4年生から5年生に対してします」と、それは小中一貫にしなくても小学校の中だけでも出来ることだと思いますけど、現状でしていないからギャップがあるんでしょうけど、具体的にどのようにして細かい対応されるつもりなんでしょうか。

ちょっと言葉が足りなかったようなんですけども、小4から小5においてギャップというわけではないんですけども、学習内容がいくつか抽象的になるので、より高度になると考えています。そういったときに小5ですね、小学校5年生、現在もそうなんですけれども、教科担任制を一部引いております。そうやって教科の専門性を高めたり、色んな先生に教えて頂くようなことをしています。そこに、その教科担任制のところは小学校の先生だけでなく中学校の教員も入って、同じように小学校の教科担任制をしていくということが小中一貫のなかのひとつの試みです。小学校5年生の算数を、例えば中学校の数学の先生と一緒に入って授業をするといったことを進めてまいりたいなと考えております。

もうひとつ質問です。関西では結構、中学校受験をされる方が多いかなと思うんですけども、そういう子どもたちにとって、小中一貫からずれますよね、中学校受験をされる方は、その子どもたちにとってこのシステムはデメリットが生じたり逆にメリットが生じたりすることはあるんでしょうか。

小中一貫というのに関して、現行の小学校6年間の学習内容、それからその上の中学校3年間の学習内容を入れ替えたり、またひっくり返したり合わせてやるとか、そういうことをしますと、先ほどお父さんからご質問があった通り他校を受験する方にとってはデメリットになるかと。逆に他校にということではなく小学校時代に転校する子にとっても不利益を生じることが予想されます。で、そんなようなカリキュラムにするのではなく、現行の学習指導要領内で連携をとることによって、そういうことは起きないと考えております。

#### < 地域の方 >

2点あります。午前中も出席させて頂いておまして、校区外就学の話があったかと思うんですね。隣接の学校に行けるという話だったと思います。それでなんかあの、父兄の方々に書面渡されたということがあったかと思うんですが、そういうことをわざわざ、やって欲しくない。これが1点です。

2点目は、予算の話です。予算の説明して頂いた、11ページの一番下ですね、1月から3月で予算編成となっていますよね。だから今年ですとこの1月から3月で、来年度の予算編成をやられるというようなことです。最後の12ページにどう表れているのかということを教えて頂きたい。この27年の1月の説明のところですね、ここで予算を出されている。そのことが、28年度にどうつながっていくのか。7月から9月のところで予算化と書かれていますけど、これは何年度の予算をいわれているのか。その辺のところを教えてください。

校区外制度のことで、若干誤解というか、私どもは、グリーンハイツ地区から、お子さんを誘導するようなかたちで校区外就学制度をやっているわけでは決してないんです。この案内の趣旨は、すでによその地区からグリーンハイツ地区の陽明小学校なり緑台小学校に来られている方がいて、今回統合によって、「とてもじゃないけれども、通える距離じゃないよ」という方がおられたときに、もう一度どうされますかという趣旨で確認させて頂いたわけです。

場合によっては、この校区外就学制度を使って、陽明小学校区のお子さんが緑台小学校に今通学されているケースもありますし、緑台小学校のお子さんが、陽明小学校に通われている事例もあるわけなんですね。このあたり、「統合するんだったらもう陽明小学校に先に変わりたいよ」という方もおられるわけです。色んな要望がやはり届いておりまして、じゃあ、ご意見を聞かしてもらおうかという趣旨で、やったもので、最初ご指摘があったように、決してこちらの地区からよそに行くことを進めるためにやったご案内ではなかったということをご理解下さい。

それから、予算との関係です。28年度欄に予算化という欄があります。これはね、例えば統合するにあたって、陽明小学校にもうひとつ、まあどうでしょうね、現在のところは教室は足りていると考えられますが、非常に広く使っている部屋があるとします。その教室を一部壁をつけて教室に変えなければならないということが出たとします。そうした時にその改造費を、改造事業を、30年度では間に合いませんので、29年度にしないと改造が間に合わないということになりますよね。ですんで、改修等というのは、29年度の4月から6月に書いてあります。つまり「29年度中に新しくお子さんが増えて統合されることを前提に準備を整えましょうね」という設定なんです。そうした場合にこの改修をするためには、改修工事を設計する必要がありますので、28年度に設計が要ります。この設計事業、設計はタダでできませんので、予算が必要なので、28年度中に予算が必要と。でこれ、良く見て頂きますと、4月6月の欄ではなくて、7月から9月の欄に予算化というのが出ています。これは万が一、今回いまこうやって説明させて頂いてます、27年度の1月から3月に間に合わない場合は、新年度始まって補正予算という、そういう時期が来ます。その補正予算の時期が、6月市議会ですので、6月市議会を承認して頂いたあとってというのが7月からなんですね。だから、先ほど「単年度で来年の分を作成されるんですよ」と説明しましたが、万が一特別な事情があって急に対応せなあかんというときは、補正予算ということで部分的に対応します。その部分的対応が、28年度の予算化という欄に相当します。これで分かって頂けましたでしょうか。

#### < 地域の方 >

うちの子たちは全員緑台小学校、緑台中学校、緑台高校、まあ一番下は明峰でしたけれども、地域と小中高校まで、育てていただきました。本当にありがたかったと思っています。統廃合については本当に色々な様々な意見があって難しいなと思っていますが、やはり一番心配なのは、緑台地

区の人たちが緑台小学校から遠くなるということ。遠くなることによって危険な通学路で帰ること。そこがすごく心配される場所だと思います。それと、学童も今は35人とか27人ですけど、これも統合されますから、必ず2クラスになる。しかもそんなにたくさん人間が夕方の長い時間を一緒に暮らすには35人1クラスもすごく狭いですから、3クラス程度の教室が必要になるんじゃないかと。本当にそれが陽明小学校に行けるんだろうかという心配があります。もう少し色んな形でデメリットを出して、それがうまくいくのかという具体案を出していただきたいなと思います。それから小中一貫校については、もう少し時間をかけて、統合については地域の中でも、どうせ1クラスになるんやったらどうなるんやろうかこうなるんやろうかって色んな議論をする時間がたくさんあったんですね。一定想像される色んな疑問をたくさん持って行ってこういう説明会寄せて頂いたんですけど、小中一貫校に関しては全く初めて聞くことで、想像できない状態で。もう少し、連携をして頂いて、一貫校にするんじゃないかと、連携をした上で検討して頂くことが一番いいんじゃないかと思うんです。一番心配なのは6年生で、やったがんばったぞ卒業だという、すごくたくさんの達成感をもらって普通の方は卒業していく小学校を、そして中学校に行って色んなギャップはあるかもしれないですけど、全然文化が違うものが果たして一緒にになれるのかという、すごく厳しい生徒指導と緩やかな生徒指導はいったいどっちに統合されるのか、まったく想像がつかない。連携をたくさんして頂いてから、小中一貫校というのが筋じゃないかと思います。そして、小中一貫校をするんだったら、他の地域からも、小中一貫校なら行きたいというようなお子さんや親御さん、増えるんじゃないかと。そういうような募集をなぜされないのか。そういうふうになれば、また学校に、親が車で送ってくるということも増えるんじゃないのかとか、具体的な指導の内容も明らかにされていないし、デメリットもはっきりしていないので、全く想像ができなさすぎて、具体性が無さすぎて、本当に小学校の先生はどう思っているのか、中学校の先生はどう思っているのかということも聞こえてきませんし、もう少し時間をかけて頂きたい。このことについて私自身は反対していいのか賛成していいのか分からないので、当面、先送りにして頂きたいです。緑台小学校ってというのは隣が緑台高校なので、高校生を見て育つんですね。後ろのグラウンドで体育をやっているのが見えます。ああいう高校生になるんだろうなとか、文化祭があるときには、あと何日で文化祭という看板が小学校から見えますので、うちの夫なんかも、緑台小学校、緑台高校だったんですけど、それを見てああいう高校生になるんだとすごく励みにしたそうなんです。それがまったく失われてしまうのはちょっと惜しいなと思います。是非、小中一貫校についてはスケジュールを後ろにずらすことをお願いします。

まずは通学支援について、これで絶対大丈夫と言うことはありませんけれども、先ほど説明させて頂きました通学支援、それから実際のマンパワーとかカメラの設置とか、そういうことを複合的に進めていく中で、出来るだけ安全で安心な通学になるようにということは考えておりますし、また各校区もそうですけれども、毎年行っています通学路の安全点検等を引き続き行っていきたいなと考えております。

次に小中一貫教育についてでございます。小中一貫教育も様々な形がありますので、じっくり協議していく、連携を深めながら進めていくということはその通りだというふうに考えております。スケジュールのところ少し掲載しておりますけれども、連携のところ、こ

ういう合同行事の実施であるとか、教職員の分掌というのがあります。これを小中、または小小が一緒になって、学習指導であるとか、生徒指導であるとか、保健安全であるとか、そういうようなことをすり合わせて、同じようにやっていけるような時間をとりたいというふうに思っています。また、上のところに教育に関する協議ということで、実際どのような小中一貫校がこの地域の特色としてふさわしいかということについては保護者や地域の方のご意見も頂きながらカリキュラムを考えていく必要があるかなというふうに思っています。そういうふうなところ、踏まえながら進めていきたいと思っております。基本的には6・3制を崩すものでは考えておりませんので、6年生できちんと卒業して、中学校へという形になるかなと考えています。高校との連携については、やはりこの地域の特色でもあります。県立の川西緑台高校とも、統合についてはお話をさせて頂いています。現在行われている小と高の交流みたいなもの、または中と高の交流みたいなものは、引き続き、統合されても進めていって欲しいと、またそのアイデアについてご教授頂きたいということで、それについてはお答えいただいております。引き続き、いい部分は引き継いでいながら、また新たな何か取り組みが出来れば、高校の力も借りたいなと思っております。

緑台小学校の校区の子どもたちは遠くなると、一番最初にご指摘頂きました。陽明小学校の一番遠いところから通っている子は緑台6丁目のおそらく下のところかと。実際に考えたときにその距離から当然、考えたらそれより向こうの親御さんお子さんたちにとったら緑台小学校の子どもたちは遠くなります。そういう面では、ここにあげております8ページ上のほうに、最大実際2.3キロほどあるんですけども、それ以上遠いお子さんについては、一定の通学支援をしていきたい、いうように思います。その具体策についても今進めているところです。もう一つは学童保育について、あとで出るかもしれませんが、地域が一緒になっても、一定の子どもさんの人数に応じて対応できるようにここは進めていきたいと、教育も含めてですね、対応していきたいと思っております。それからこの小中一貫教育について、一定の時間があるということなんですけれども、先ほどの6ページの、お手元の6ページ上のところに、そちらの方でも説明させて頂きました。その中で、もうすでに、行事の交流とか、それから教職員の実践的な研修とかですね、それから今年は、緑台小学校と陽明小学校の6年の子どもたちが、2学期ですけれども、緑中に行って、そこの教育、担当がありますから、緑台小学校の子どもたちは2クラスがそこに行って、保健体育と英語、陽明小の子どもたちは今6年生1クラスなんです、それが緑中に行って2クラスに分かれて、そこで2教科の授業を模擬的に、内容は小学校の6年生の授業内容ですけれども、実際に違う学校に行って、中学校の方で授業を受けると、そういう取り組みもしております。それから、部活動の交流については、5・6年生が中学校に行って、実際に部活動の交流をしている。そういったことで、過去5・6年前から進めている中で、新しいそういった交流の授業を進めている中で、ある面では両方の関係作りとか、中学校の連携に繋がる、そういったすべというものが出来つつあると思っております。そういったもの踏まえて、小学校と中学校の一貫教育についても、一部ですけれども教科については、専門の例えば英語の先生が小学校の外国語の授業をチームティーチングで担任の先生と一緒に入って、また理科の先生が中学校か

ら入って、5・6年生が授業を受ける。5・6年生の授業を一緒に進めていく。そういう形。また逆の方で、小学校で図工とか音楽の専科の先生が中学校の方に行って中学校の子どもたちの授業を実際に関わっていく、そういう中で先生方の交流とか、子どもたちの連携がより深まるという意味で一貫教育も進めていきたいなと思っております。

小中一貫校になって何が変わるか全然分からないんですけどもね、教育内容も小学校は小学校、中学校は中学校のままですし、それはもしかすると音楽の先生が小中で一人になってしまうということなんでしょうか。あるいは保健の先生が小中で一人になってしまって、トータル先生が減ってしまうということなんでしょうか。なぜそこで一緒にしたらお得なことがとか良い事があるんでしょうか。人が増えるんだったら嬉しいと思うんですね。小中一貫校にするから、人が増えて、もう少したくさん増えますということならすごく嬉しいんですけど、なんか大丈夫なんだろうかとすごい心配するんですけど、先生の手数は減るんでしょうか。

今、本市の方で考えている小中一貫校というのは、施設が、小学校と中学校と別々にある、そういう施設分離型、隣接型にいうものに位置するかと思うんですけども、そのそれぞれの小学校に校長先生がおられて、それぞれの学校に教職員がおられて、先ほど例に出ました養護教諭の先生もお一人ずついらっしゃいます。それと教職員も今の定数のまゐるような形になります。しかしながら子どもの学習内容について連携をとっていく、それからそういうことによってより学力が向上するようなことを考えていきたいと思いますということ、それともう一つは、緑小の子どもが緑高の子どもを見て、何かを学んでいく。ああいうふうになるんだなっていうようなことが、奇しくも小学校中学校の間で見ながら育っていく、逆に上の子は年少の子に対する思いやりやそういうことを示していくというような、昨今少子化で兄弟関係が少ないなかでの人間関係や社会性の育成ということにも小中一貫校が役に立つ、そういうところにメリットがあるのではないかと認識しております。まだまだこのようにご質問が、小中一貫校についてのご質問が上がってくるということはこちらの説明不足だと思いますので、具体を含めて今後またご提示できるようにしたいと思います。

#### < 地域の方 >

子どもも40過ぎて、陽明小学校・緑台中学校・緑台高校とお世話になった父兄です。ただいま地域の仕事をしておりますが、すごく気になったことがございます。日本国中の問題であるとは思いますが、統合もやむを得ないかという気が、正直しております。ここの地域のことを考えました時に、ちょうど30年の時に松風幼稚園も廃園になります。それも子どもが少ないからという理由ですから今回の事とつながってくるわけです。松風幼稚園が無くなることでここは相当ダメージを受けます。公立の幼稚園施設がなくなるわけですから、若い世代の人たちがここへ入ってきにくい。そこへ緑台小学校が陽明小学校の方に、ひとつになってしまうと、緑台小学校区の方はある意味、小学校が近くにない地域になるわけですね。またそこでマイナスの要因が出来てしまう。長い歴史の中で見れば、いつしか回復されて、ましてや小中一貫校というシステムがしっかりしてく

れば、大きな魅力になって、若い方たちが入ってこられるという想定のもとで、今動いてくださっていると思うんですが、あまりにもダメージが大きすぎる。地域はそこまで待てないんです。今後幼保一体のものが出来るかもしれないという動きがありますけれども、この街に住みたいと言うふうに思ってくれる要因をね、消さないでほしい。松風幼稚園の廃園だけでものすごく大きな痛手だと思っています。決して幼保一体、小中一貫、小学校の統合に反対するわけでもないんですけれども、こういう方法しか取れないのかなと。一番最後に、このことは決定事項なのかというふうに質問されておりましたが、そのことに対して明確に、「いえ、決定事項ではありません。」「いえ、決定事項です」という、返事が、皆さんは聞きたいと思うんですけれども、あえてそういう回答はされていません。それはそれでいいと思うんですけれども、何か方法はないんでしょうか。このままぶっちぎっていくことばかりでは、どこをどうやって再生していけばいいのか、本当に頭を抱えてしまいます。これが正直な意見です。以上です。

ご意見として賜りたいと思います。ありがとうございます。

#### < 在籍 保護者 >

前回の説明会も緑台小学校の方で聞かせて頂いて、今回は午前中の方にも参加させて頂いたんですけども、やっぱりその、無くなってしまおうかと、受け入れる側ということは仕方ないと思うんですけども、緑台小学校の保護者の方と、陽明小学校との温度差が、すごく感じられて、これで内容的にも全然納得されていないまま、緑小の方で終わっていたので、このまま「第3回の説明会をします、そこで決定します」ということで動かされた場合、納得しないまま、どれくらいの反対を集めたらこれは、どれくらい反対者がいれば廃止になるんですかという意見が出ていたんですね。そういうことまで思われている方たちがいる中で、3回目の説明会します、そこで決定して先へ進めますという予定でされますと、それでまあ、力負けしてというか、統合の形だけ進んでいくのかもしれないんですけど、実際一緒になった時にうまくやっていけるのかな、というのは、本当に、何というか、子どもたち、今1・2年生の子は、今仲良くするつもりで前向きに捉えてくれていると思うんですけど、実際5・6年生で思春期で、先ほどおっしゃってた、自尊心が急激に低下する時期とおっしゃっていましたが、そこで一緒になる子たちっていうのが、中1ギャップの解消と、今具体的に、総論として全国的に中1ギャップがありますよということで動かれているんですけども、この地域で具体的に問題が出ているとかいうことで、その解決で動いておられるようには見受けられなくて、国の方針として、12から18学級が望ましい、統合が望ましいって、小中一貫という手もあるよみたいな、前向きに見える施策として、小中一貫っていうのがあるよっていうようなことで、文部科学省の指針に則って全国的な総論として動いているような感じで、この地域性とか本当に具体的に見て頂いていない進め方をされているように思います。グリーンハイツ全体として考えた時に、緑台小学校が出来て多くなったから陽明小が出来た、緑台小に戻すべきじゃないかと緑小の方たちおっしゃってたんですけど、地域、そうはいいながらも陽明小もあとでできて年数も立ってそれぞれに歴史があって、同じコミュニティでということなんですけれども、同じグリーンハイツとはいっても、それぞれの学校が出来て、育て、私とかのママ友世代でも陽明小出身、

緑小出身とおられるわけで、文化としてだいぶ違ってきているんです。もうここに宅地開発されて住み始めた方、高齢の方たちがグリーンハイツの将来を案じて午前中もたくさん来て頂いていたんですけども、そういう方たちに対して、まあグリーンハイツはひとつっていう意識はもちろんあって、私たちもあるんですけど、その親世代、子ども世代で文化も全然違って、それが一緒になるってというのは、「グリーンハイツってひとつだよな」と言って、外から見た形で、まあ行けるんじゃないというくらいの見込みで動かれると、いざ何かあった時ってというのはやっぱり、当事者たちの心に傷が一生残るような問題ですので、そこは本当に慎重に動いて頂きたいと思っています。3回目の説明会をして、これで終了という形だけ整えていくのではなく、前回の小中一貫の事とか、具体的じゃなくて、今回2回目の説明会ということで、もう少し具体的なお話が聞けるのかなと思っていましたが、あまり、前回の質問に対して、「ちょっとこの部分答えてみました」という感じで、その後の進捗状況が見えてこないんですね。例えばですけども、ここの補助金とか、そういうものを受ける予定にされているとか、何年以内に何をしないとイケないとか、具体的な話があったほうが、納得出来ると思うんですけども、そういう反対されそうな部分は伏せて総論的にきれいな話だけで、なんとか抑えようみたいに聞こえてしまいますので、何かそちらで計画されていることとか、こういうことをしていこうと思っているとか、具体的に今の時点で、全然イメージが詳しく湧いてこないの、詳しく教えて頂きたいんです。跡地利用のことについても、緑小生の、だけの問題じゃなくて、やっぱりグリーンハイツの住民として跡地が何になるかは、同時進行というか、もともとこういうことに使っていくというビジョンでグリーンハイツを良くしていくためにこういうものにしていきたいという案があって、その緑小生と保護者の方がそういうことで利用されるんならと納得できるくらいのものでなかったらイケないと思ってしまうんです。「跡地については市長部局で後でやりますんで、よければ参加してください」というの、そういうものではなくて、やっぱり、緑小の在校生もそうですし、卒業生も、私も含めてですけど、やっぱり大切にしている母校ですので、愛校心とかそういうことを言いながら跡地になったら普通財産なので市長部局ですということじゃなくて、子どもに押し付けるってというのは、午前中も、それはダメっていうことですけど、やっぱり保護者の方を中心に据えて頂いて、卒業生とか地域の方とかが、大事にされている緑台小学校っていうのを、どういう使い方をするのかを含めて、皆さんの理解を得る形で進めて頂かないと、無理やり一緒になった時に、子ども同士の何かが起こった時に、保護者同士が反発しあうようなことが起こってしまうような、ちょっと怖さもあったり、そういうのがちらちらと、午前中のとか全体の説明会お聞きしていても危機感を感じています。

前回の説明会の時だったかと思うんですけど、校区の範囲を変えることで対応できないんでしょうかと、多田東小とかそちらの校区をこちらの方にちょっと移すとか、統合しない方向性もあるんじゃないですかという質問も出てたかと思うんですけど、もう、あの、統合したい方向で、それに対する説明ばかりされている感じがするので、具体的に皆さんが持っておられる、想定しておられることをもうちょっとオープンにして頂いて、それをみんなで、地域の方も保護者も、それが妥当だなと思えるような、みんなで考える体制にしていきたいなと思います。跡地利用、補助金、小中一貫、具体的に検討されていて、どこまで、どういうくらいの、例えば今の連携としては、今の1学期に1回とか、分かりませんが年1回とかやっているものが、月1回にするくらいのことやとか、週1回くらいにする見込みなのか、子どもが中学校に行ったら授業受けるとか先生が来られると

か、そういうことをどの程度考えておられるのかをもう少し詳しくお聞きしたいのと、3回目の説明会をしていただければ、これは市長部局の役割ですとか、そういうのを縦割り、川西市の行政としてのご都合ではなくて、グリーンハイツ全体考えるということで、せっかく保護者以外の、卒業の方の親御さん、世代の方にも来ていただいていますので、そういうこと考えられる場として作って頂きたいと思います。

補助金についてはいろいろあっていますが、なかなか該当するものは現在のところはありません。国や県の方針や指針が決まっていないところもありますので、使える補助金であるとか、そういうものはできるだけ使っていきたいと思っています。通学支援でありますとか、統合調整加配については市の財政で補ってやっていこうというふうに考えております。それから、跡地活用についてということで、これはもちろん同時並行でやっていくべきものであるというふうには考えております。跡地利用があるから統合するというのではなくて、まずは教育的な観点から統合の必要性があるんじゃないかなということを一定整理して、方向を決定して、それと同時に、それがはっきりした後に、やっぱり進めていくべきじゃないかなと考えております。最終ページにも書かせて頂きましたように、ある程度方向性がはっきりした時点でそういう跡地利用についての協議会みたいなものも開催していきたいなというふうに考えております。そのなかで、地域の意見や保護者の意見等々考えながら、先ほど言いました町おこし、街づくりの視点でその施設をどのようにして活用していくのか、どのように使うのかということについては、ご教授して頂ければなと、そういう形になると考えておりますし、教育委員会でももちろん教育施設として、何か活用したいというアイデアもありますので、そこについてはきちっと意見は出して頂きたいなというふうに考えております。教育長に替わります。

緑台小学校と陽明小学校、実質は30年の4月の統合と言いましたけれど、現在、緑台小学校は、4階が本当に空いている状態です。かつては1,000人規模ぐらいあったんだけど現実、これぐらいの規模の小学校が並行して2つあるんです。あと数年後に200人後半になると、それが100人ぐらいになった時に、1クラスの状態がずっと、両方でつづく状況なんですね。

本当にそういう10人、15人のクラスが1年から6年までずっと続く状態があって、他市においては、そういったことについて協議をなさって、そして一貫、統合をなさるような実態もございます。今30年4月に1クラス出てきて、2年3年後には1年2年3年4年くらいまでが、平成33年にはほとんど、1・2・3・4年生までが、そういった状況になってくる。それがずっと続く中で、少し距離的にかもしれませんが、そういった形できちっとひとつの学校にして、そしてそこで一定の効果がある。

第一はそれぞれの小学校中学校が、授業をしっかりとやっていくことが当然です。そこに専門の先生方が、お互いに授業をしていく環境を作る中で、小中一貫教育の一部ですけれども、そういった取り組みを通してさらに子どもたちの学力や生活面の向上を図っていく、ということがとても大事だと思っていますし、そういうことを今考えているところなんです。

あと、跡地利用につきましては、緑台小学校の方を考えてますけど、当然緑台小学校40年間歴史があったということも踏まえて、その校舎の跡地をどうしていくかということはどうですか、あと地域や市民の方々にどうしていくか、当然校庭も含めてですけど、そういったことを、今年来年と2年間ありますので、市長部局と申しましたけれども、専門の職員もおります。そして地域の方々と協議をしていく中で、どうしていくかということを検討しながら、並行して進めていくことが考えられます。そういったことの中で、教育委員会としては、教育の視点から統合を通してより良いかたちで進めていきたいということがひとつと、空いた方に関しては、市長をはじめ市全部で、グリーンハイツの緑台小学校区の跡地について、並行する形で進めてまいりたいということは市の方に言っておりますので、そこは一緒に考えていけたらと思っています。担当に替わります。

校区変更の件と、それから保護者さんの今後の立場ですね、十分わかります。先ほどの説明会も出られていたということですから、私たちもそれは感じます。この先この話、今教育長が説明しておりますとおり、この話を進めていくうえで、両地区の関係が悪くなるということはとても困ることで、私たちは全然意図していないことなんです。なんとか理解を得られるように、こちらの陽明小の保護者さんには、あるいはお子さんがね、統合後にこの件でしんどいことにならないような配慮は考えていきたいと思います。何が出来るかと、そういうことは今ないんですけど、おっしゃられたお母さんの心配ものすごくわかります。それと校区の問題でご説明しますと、例えば緑台小が今グリーンハイツ地区で設定されてて、非常にお子さんが少ない。そしたら隣接の多田東小校区を緑台に統合したらいいじゃないかということをするんですね、言葉は悪いですけど今度、多田東小の校区のお子さんを計算上ぶんどる形になります。そうすると違う地区との調整ごとが発生します。校区の問題っていうのは、この件もそうなんですけど、そういった意味で、学校だけの話じゃないわけなんです。とても難しいデリケートな問題ですから、丁寧にやっていきたいなと思っています。案として校区改変して緑台小を増やすようにしたらいいんじゃないんですかというのはあるんですが、これもなかなかしんどいなと。一応これはご理解ください。立場を越え申し上げましたけれども、本当にこの先、統合するにあたって、どちらかというと陽明小の方が学校規模が小さい、わずかですけど小さい。単クラスになるのもこちらの方が多くなってきます。統合の時に、うまくいくようにその時はお力を貸して頂きたいなと思います。

---

終了